

編集後記

念願の人文学部が誕生してはや1年を経過し、ここに人文学部文化学科紀要『人文論叢』を創刊した。激動する社会を前に、自由と進取の理想にもえて、新しい学風をめざしてその歴史の第1歩を刻んだ。

近年自然科学のめざましい発展によって、人類は日常生活の隅々からその存亡にかかわる問題までをふくめて、かつてない変動に見舞われている。21世紀を見通すことのできる今日、私たちは人文科学・社会科学を一層強力に鍛え直し、現実の提起する困難だが魅力にみちた課題に積極的にとりくむ必要にせまられている。

一部には人文・社会科学は「冬の時代」であるという評言もきかれる。学問体系が再構築され、学際的な方法による、広く国の内外と結びついた錬磨のなかでこそ、魅力にみちた創造的研究をみのらせることができるのだろう。この新学部が、その意気において、また研究の成果において、大きな学問のうねりをここ伊勢湾から全国に伝えうることを切に期待している。

洋の東西にわたる学殖と秀れた共同研究の実績に立って、戦後人文科学の内容を深めてこられた桑原武夫氏の言によれば、「今日の科学者は、専門科学の内部において真理という点において責任をもつことは当然ですが、それと同時に、人類・国家・民族・地域社会の幸福ということを、いつもあわせて考慮しなければならないという意味において、科学的責任と同時に、社会的責任というものをもっています」(『ヨーロッパ文明と日本』)という。今後の人文科学のあり方を思うとき、けだし至言であろう。(S)

編集委員

荒井茂夫・伊東祐之・宇京頼三

斎藤健一・酒井 一

—表紙の題字は伊藤達雄学部長の筆になる。—

人文論叢(三重大学人文学部文化学科紀要)

第 1 号

1984年3月15日 印刷

1984年3月31日 発行

編集兼
発行者

三重大学人文学部文化学科
津市上浜町1515 〒514
電話(0592)32-1211

印刷

オリエンタル印刷株式会社
三重県安芸郡河芸町上野2100 〒510-03